

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	アジア地域研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容 【 A 】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	講義科目と演習科目（研究指導）のバランス
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	・博士課程前期課程では、カリキュラム・ポリシーに基づき、次のような授業科目が開設されている。基礎科目はディシプリンを重視し、社会科学的研究と人文科学研究の 2 つに大別し、前者を政治研究、経済研究、社会研究の 3 専攻、後者を歴史研究、文化研究、芸術研究の 3 専攻の全部で 6 専攻に分ける。基礎科目には講義科目を各 2 科目ずつ 12 科目と演習科目を設ける。関連科目として地域研究特殊講義を配置する。学生はディシプリンや地域の枠を超えて講義科目を履修することができる。 ・博士課程後期課程では、カリキュラム・ポリシーに基づき、次のような授業科目が開設されている。基礎科目はディシプリンを重視し、社会科学的研究と人文科学研究の 2 つに大別し、前者を政治研究、経済研究、社会研究の 3 専攻、後者を歴史研究、文化研究、芸術研究の 3 専攻の全部で 6 専攻に分ける。専攻科目は演習を中心とし、テーマに即した指導教員の下で研究論文作成に取り組む。
4-2-2	より幅広い知識と教養を身に付けたいという学生のニーズに応えるため、2013 年にカリキュラム改定を行い、従来は 2 コマ続き半期 4 単位隔年開講であった専攻科目の講義科目を、2014 年度から 1 コマ半期 2 単位毎年開講とし、関連科目を再編し、地域調査方法論と地域研究特殊講義の 2 種類にわけて配置することになった。この改定で学生が多様な科目を履修しやすくするように配慮した。
4-2-3	・博士課程前期課程と博士課程後期課程では、留学を奨励すると共に、フィールドワーク奨学金を授与している。 ・2007 年に北京事務所が開設された後、本研究科の中国での広報活動と入試業務の一部にかかわっている。 ・海外留学等研究活動の推進のために、上海師範大学（中国上海）、ベトナム国家大学ハノイ（ベトナム）、パジャジャラン大学（インドネシア）、ジャワハルラーネルー大学（インド）と協定を結んでいる。 ・2013 年 11 月に 90 周年事業の一環として開催された国際会議「台頭する中国とアジアの新秩序」には、ほとんどの大学院生が出席した。 ・留学生受け入れの面では、提携校からの交流学生だけでなく、大使館推薦による留学生についても積極的に受入れている。 ・さらに、本研究科院生による海外でのフィールドワークを積極的に推進するべく、応募を奨励するとともに計画書作成の指導も強化し、毎年多数の院生を送り出している。 ・院生のフィールドワークは論文作成に役立っており、大きな成果をあげている。
4-2-4	教務委員会、国際交流委員会など大学院各種委員会によって、教育課程の適切性を検証する体制を整えている。

【効果が上がっている事項】

4-2-1	カリキュラム・ポリシーに基づいた授業が開講されている。
4-2-2	
4-2-3	学生はフィールドワーク奨学金を利用して、毎年、海外に関連する課題に取り組んでおり、平成 25 年度にフィールドワークを行った院生は全 18 名中 5 名である。平成 26 年度は 10 名が海外でフィールドワークを行うことになっている。国際会議の開催等、国際交流も活発に行われている。
4-2-4	

【改善すべき事項】

4-2-1	
-------	--

4-2-2	2013年に改定された新カリキュラムを適切に実施する。
4-2-3	学生の国際交流を推進する。
4-2-4	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

『大学院履修要項』

《指標データ》

データ集（表8）大学院における学位授与状況

（表10）公開講座の開設状況

（表11）学生の国別国際交流

（表12）海外への派遣学生数

（表13）国別留学生数（学部別）の経年変化

（表14）教員・研究者の国際学術研究交流

（表17）各年次ごとの履修登録単位数制限の状況

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-2-2 新カリキュラムを適切に実施する。	新カリキュラムによる授業の満足度を高める。	→				
	4-2-3 学生の国際交流をさらに推進する。	学生のフィールドワーク参加者数を継続的に高い水準に維持する。	→				
14年度 目標	4-2-2 改定された新カリキュラムの実施	学生アンケートによって実施の結果を確認し、80%以上の満足度を達成する。	→	A			
	4-2-3 学生の国際交流を推進するための院生組織の整備。	院生連絡会の設立と定期的な会合の開催。	→	S			